注意！
■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第５号　畜　産

発行日　平成２６年　７月３１日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター　県域普及グループ　（電話　0197-68-4436）

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「http://i-agri.net」 携帯電話からは「http://i-agri.net/agri/i/」

携帯電話用 QR コード

◆　飼料作物

【牧草】

草地更新　秋播種にむけて、播種床を準備する時期です。耕起、砕土、整地作業は丁寧に行い、膨軟な播種床を作成します。

【飼料用トウモロコシ】

電気柵設置作業の省力化を図ります。
ソルガムへの転換もクマ食害防止の１つの手段です。

◆　乳牛

暑熱ストレスによるアシドーシスを防止します。

１　飼料作物

（１）　牧　草

ア　除草剤の播種日同日処理における播種床の作成

（ア）永年性牧草は、8 月中旬から 9 月中旬を目安に播種しますが、播種の約 30 日前（7 月中旬から 8 月上旬）に播種床を予め形成し、雑草を十分に生育させます。

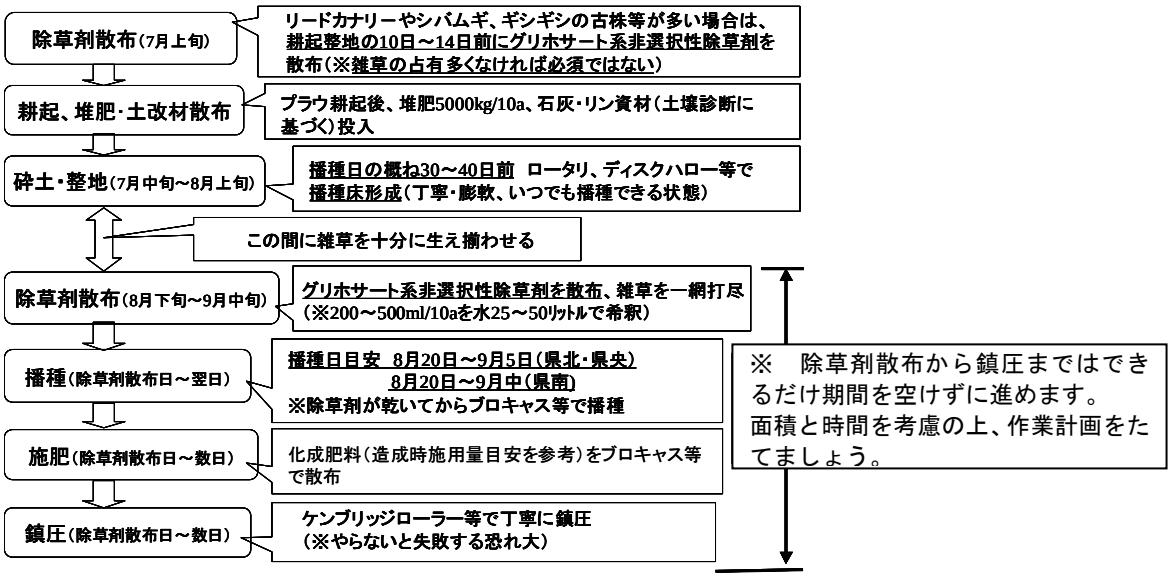
（イ）前植生処理が未実施の場合は、速やかに非選択性除草剤を散布するか刈払を行います。

（ウ）耕起作業では、ルートマットが確実に土壌と混和するよう十分な深さを確保します。耕起作業の良否が次の砕土・整地作業の精度に影響します。

（エ）堆肥は、10 アールあたり 5t を目安に散布します。炭カルなど土壌改良資材を必要量施用します。

（オ）砕土・整地作業は、ルートマットが確実に土壌と混和するよう、また、施用した堆肥や土壌改良資材が十分に土壌と混和するよう丁寧に行います。十分に砕土された膨軟な播種床は、牧草の出芽と定着を高めます。

図１除草剤の播種日同日処理の概要



（２） 飼料用トウモロコシ

ア　電気牧柵の設置作業省力化

毎年の電気牧柵設置、撤収の作業を楽にする方法があります。

(ア)電気牧柵の一部恒久柵化

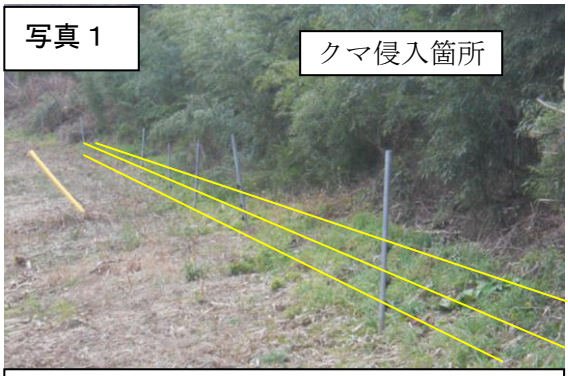
クマがよく侵入すると思われる山林や竹やぶに面した側だけでもフェンシングワイヤーを用いた恒久柵にします。

収穫作業時、冬季はワイヤーを地面に落しておき、次の年の設置時にワイヤーを上にあげて元に戻す。このようにすれば省力化が図れます。

※恒久柵の設置は機械による耕起・播種・収穫作業の邪魔にならないように注意が必要です。

恒久柵に使用するワイヤーは従来のポリワイヤーにくらべ強度が高く、通電しやすいので電気牧柵自体の強化にもなります。

写真１



クマ侵入箇所部分を恒久柵にした事例です（黄色部分がワイヤー）。

写真２

冬はワイヤーを地面に落しておきます。そうしないと雪の重みで碍子（○内）が破損します。

イ　飼料用トウモロコシからソルガムへの転換

毎年電牧を管理する時間も労力もない、人里離れた圃場で目が十分に行き届かないといった悩みのある方は、飼料用トウモロコシからソルガムへの転換も一考の余地ありです。来年の作付けの参考にして下さい。飼料用トウモロコシよりも栄養価（ＴＤＮ）が低いので、和牛繁殖農家の方々にお勧めです。

（ア）ソルガムの特徴

- <u>クマによる食害が少ない、ない</u>
- 様々な品種がある（草姿・耐倒伏性・収量）
- 播種時期が田植え、トウモロコシより遅い（日平均気温１５℃を超えてから）
- 刈り取り時期の幅が広い（霜にあたっても枯れ上がりづらい）
- 種子代が安い
- 除草剤の選択幅が少ない
- 栄養価は牧草と同程度である（ＴＤＮ６２％前後）。

（イ）栽培事例：高消化性ソルガム「秋立」

- 播種時期は５月下旬～６月中旬
- 畦間は７５ｃｍ（飼料用トウモロコシと同じ）、株間は８～１０ｃｍで<u>必ず点播しましょう</u>
  条播すると倒伏しやすくなります。
- 収穫時期は出穂期（９月上旬）～乳熟期（１０月中旬）
- 詳しい栽培方法は普及センターにご相談下さい。

写真３

初期生育はトウモロコシほど早くない。冷害に弱いという面もありますが・・

盆過ぎから急激に伸長します。穂は茎の先端につき、クマの食害はほぼありません。

２　乳　牛

（１）暑熱ストレスによるアシドーシス防止

暑熱ストレスをうけた牛は反芻時間が少なくなるため、アシドーシスになりやすくなります。

ア　アシドーシス対策

最重要：暑熱期には給与飼料全体の粗飼料割合を下げてはいけません！！

穀物類を消化のよい粗飼料かビートパルプやマメ皮などに置き換えてやります。

その他、主な対策は下記のとおりです。

（ア）嗜好性のよい、消化率の高い粗飼料を給与する。

これによって乾物摂取量を高く維持し、粗飼料からより多くのエネルギーを得ることができます。

発生熱は繊維＞穀物、脂肪ですが、粗飼料の消化率が高くなればルーメン滞留時間が短くなり、発生熱は少なくなります。

（イ）カサのない飼料をやりすぎない。

粗飼料をビートパルプに置き換えるとカサがなくなり、一気喰いしやすくアシドーシスになりやすくなります。

（ウ）ルーメンｐＨ低下を緩和するため重曹を増給または自由採食させる。

重曹はルーメンでの発酵熱を増やさずに牛にルーメンｐＨ緩衝材を供給できる便利なものです。１００～２００ｇ／頭／日を目安にします。

次号は８月２８日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

■日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。

■帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。

■屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

６月１日～８月３１日は
農薬危害防止運動期間です

- **近隣住民・周辺環境に配慮しましょう**
- **農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう**
- **農薬の保管・管理は適切にしましょう**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。